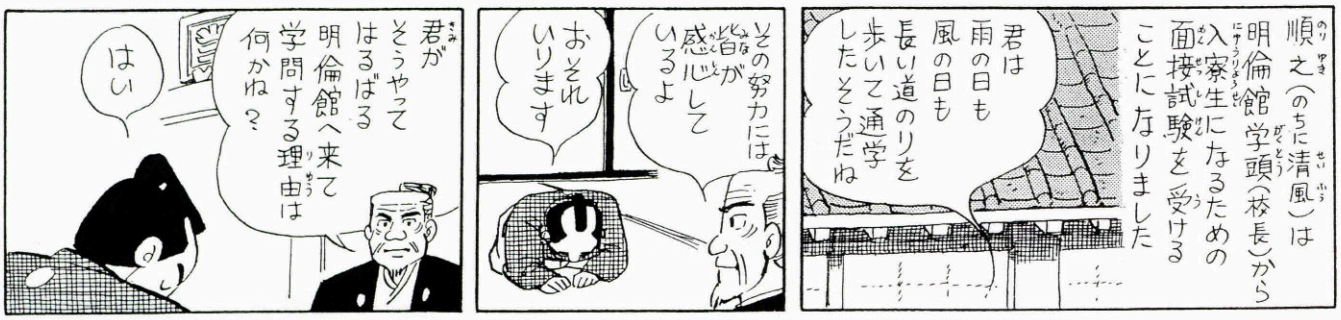
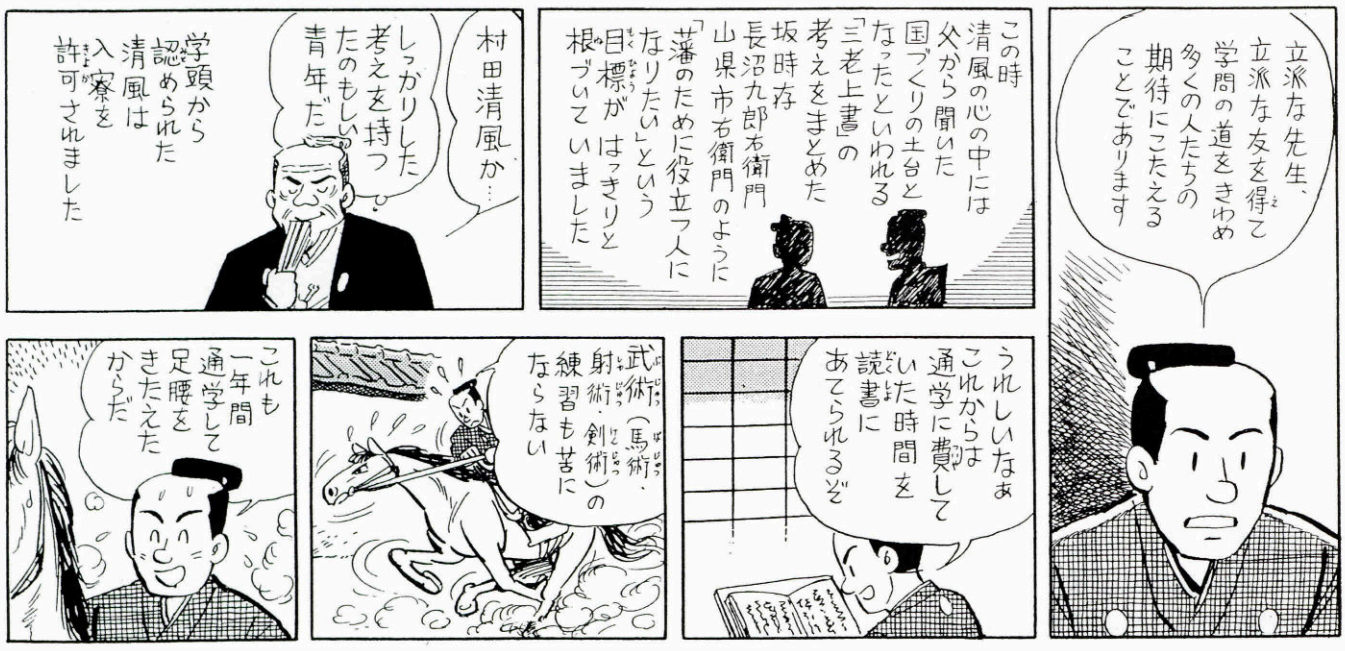
寛政九年（一七九七年）
三月 九日
亀之助
元服の日です
ホケキョ…
兄上
ご立派
です
おめで
とうで
ござる
凛凛
しゅう
ございますね
今日から
お前は名を
新左衛門順之と
改めるがよい
これからは
今まで以上に
勉学に励み
しっかりと
磨きのかかった
自分の考えを
持たねば
ならぬ
そのためには
何事も
努力を
惜しんでは
ならぬぞ
はい！


順之（のちに清風）は
明倫館学頭（校長）から
入寮生になるための
面接試験を受ける
ことになりました
君は
雨の日も
風の日も
長い道のりを
歩いて通学
したそうだね
その努力には
皆が
感心して
いるよ
おそれ
いります
君が
そうやって
はるばる
明倫館へ来て
学問する理由は
何かね？
はい


立派な先生、
立派な友を得て
学問の道をきわめ
多くの人たちの
期待にこたえる
ことであります
この時
清風の心の中には
父から聞いた
国づくりの土台と
なったといわれる
「三老上書」の
考えをまとめた
坂時存
長沼九郎右衛門
山県市右衛門のように
「藩のために役立つ人に
なりたい」という
目標が はっきりと
根づいていました
村田清風か…
しっかりした
考えを持つ
たのもしい
青年だ
学頭から
認められた
清風は
入寮を
許可されました
うれしいなぁ
これからは
通学に費して
いた時間を
読書に
あてられるぞ
武術（馬術、
射術、剣術）の
練習も苦に
ならない
これも
一年間
通学して
足腰を
きたえた
からだ

〈以下次号〉